「地域における就労継続支援・生活介護活動への参加
―障害者とともに同じときを過ごす―」

担当教員　國則守生

コース概要

日程　2019 年 2 月 1 日～25 日の 4 日間

場所　埼玉県三郷市半田および新和

参加人数　10 名

コースのねらい

このフィールドスタディは、知的障害者などの障害者が行う作業や活動に学生が参加し、ともに活動することによって、地域での障害者福祉活動を理解し、学生自身が地域のなかで何ができるのか、何をすべきなのかなどについてフィールドの現場で考え実感してもらうことを目的としています。

内容

フィールドの現場は埼玉県三郷市の社会福祉法人・緑の風福祉会で、参加学生は障害者が行う内職活動（プラスティック部品選別など）、創作活動（さをり織）、資源回収、ポスティング、散歩、パン・クッキー製造、パン販売（病院などの地域を訪問し販売すること）など、緑の風福祉会が実施している活動全般に参加し、就労支援や生活介護などの活動を行いました。多くの参加学生は障害者と活動をともにするのが初めてでしたが、4 日間の実習を通じて、各自がどのようなことができるのか、地域社会としてどのような課題などがあるのかなどについてそれぞれが現場で考え、気づくことが期待されました。

このために、各学生は施設での諸活動に参加した後、その内容を所定のフィールド・スタディ・ノートに記載し、施設の方のコメントや助言を得る形で 1 日毎の活動を終えました。現場での活動の後、各人

1 日を終えてフィールド・ノートへの記入風景 1

1 日を終えてフィールド・ノートへの記入風景 2

のフィールド・スタディ・ノートの一部の内容とフィールドスタディの一環として課された追加課題をもとに全員でフィールドスタディ報告書を作成しました。

以上のようなフィールドスタディへの参加を通じて、ノーマライゼーション（normalization）、社会的包摂（social inclusion）など、障害者の生活環境をめぐる議論にも目を向けるきっかけとなることを目指しました。

Bakery & Café 施設のマンマミーアの前で

学習を終えて

4 日間の実習記録を記載したフィールド・スタディ・ノートを作成（各日には所属した施設側職員のコメントあり）したほか、①人間環境学部生として参加する目的、②参加前後のそれぞれの感想・気づき、③各参加者が介護・福祉関係（障害者関係を含む）の範囲の書籍のなかで選択した 1 冊についての読書感想、という 3 つのパートからなるフィールドスタディ報告書を作成しました。以下は、そのうちの感想・気付きのなかの振り返りの一部です。

今回障害者施設を 4 日間訪問して感じたのは、私たちは勝手に障害者の人たちに対して一方的に壁を作っていたのではないかということです。私は今回訪問するまで、障害者の方たちは何もせずそれを衣食住サポートするものだと思っていました。しかし障害者の方たちは自分たちの意志で物事を進め、活動をしていました。同じ立場であるはずの我々なのに、勝手に線引きをしていました。とても失礼なことだと思いました。私は改めて障害者の方たちと何も隔たりがなく、みんなが過ごしやすい環境を作れるようになにか活動をしていけるようにしたいです。（3 年　鈴木駿平）

今回の実習で本当に多くのことを学ばせてもらいました。最初は、障害者支援とはどういうことをやっているのかを知りたくてこのフィールドスタディに参加しました。しかし、この 4 日間で障害者支援の実態はもちろんですが、それ以外にも障害者の方のことや職員の方の接し方など、初めて知ることがとてもありました。特に私がフィールドスタディに参加する前と後で認識が変わったのが、障害者の方のイメージです。今まで接したことのある障害者の方は年が近かったり、車椅子で生活している方であったり、色々と手助けを必要とする方がほとんどでした。そういう方々でもとても親しみやすく、親近感が湧きましたが、今回接した方々はほとんどの方が年上で、さらに内職や仕事をしている方々です。同じ障害者というくくりで勝手に認識していましたが、実際は施設の中でも障害は人それぞれで、できることも人それぞれでした。そのことにまず驚くと共に、職員の方々も全て手助けするのではなく、できることはほとんどを利用者さん自身にやらせるという姿勢にも驚きました。（2 年　堀田雪菜）